

会議録

会議の名称	平成21年度第9回行財政改革推進委員会
開催日時	平成22年2月23日（火曜日）15時から17時まで
開催場所	田無庁舎4階第3委員会室
出席者	委員：横道委員長、吉田副委員長、浅尾委員、今井委員、岡田委員、鈴木（純）委員 事務局：池田企画部長、池澤参与兼財政課長、柴原企画政策課長、植竹企画部主幹、掛谷企画政策課主任、増岡企画政策課主任、山田企画政策課主任
議題	1 第三次行財政改革大綱（案）について 2 平成22年度予算案について 3 平成21年度施策評価（試行）の結果について 4 その他
会議資料の名称	資料1 第三次行財政改革大綱（案） 資料2 第三次行財政改革大綱素案に対するパブリックコメントの概要 資料3 平成22年度予算案の概要 資料4 平成21年度施策評価（試行）の概要 資料5 1. 施策評価シート（試行当初） 2. 施策評価シート（施行後修正）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>議題1第三次行財政改革大綱（案）について</p> <p>○横道委員長： 議題1について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>○事務局： 資料1、資料2に基づき内容説明</p> <p>○横道委員長： 前回の会議で議論した素案に対してパブリックコメントを実施し、その結果もまとまっています。ご意見やご質問がありましたらお願いします。</p> <p>○今井委員：</p>	

3ページに、これまでの経常収支比率の推移の表がありますが、西東京市の数値が平成16年度に急激に上昇しています。下に注釈で説明がありますが、もう少しその辺りの状況についての説明を加えないと、これまでの推移が理解しにくいと思います。

○事務局：

合併当初3年間の財政支援が終了したことや退職者数の増加による影響があります。

また、三位一体の改革の影響については、類似団体は交付税の不交付団体もありますので、本市の場合は平均と比べると影響を大きく受けています。

注釈については、本市の状況を加えて修正します。

○今井委員：

多くの取組みが位置付けられていますが、財政効果としては業務の見直しや予算編成時のシーリングが中心的なものになるのだらうと思います。しかし、これらの取組みだけではあまり多くの効果はできないので、この他にも全事業の見直しや契約制度の見直し、予算編成段階への市民参加などが必要であると考えています。

また、行財政改革の取組みに当たっては、市民はどのように介入していくのでしょうか。

○事務局：

事業の見直しなどについては、引き続き事務事業評価を実施します。

また、市民参加については、個々の取組みに当たって、それぞれ市民参加条例に基づきながら事業を実施していくこととなります。

行政評価制度においては、施策評価では来年度に市民意識調査を実施し、その結果を評価に反映することを考えています。

また、平成23年度に実施予定の事務事業評価では、評価の過程でどのような形で市民の方に関わっていただくか、来年度に検討する予定です。

○横道委員長：

本文中にもありますが、やはり取組期間の5年間を見通した固定的な目標値の設定は難しいのでしょうか。

○事務局：

今年度の税収について約11億円の減額補正を実施したところですが、来年度当初予算ではさらに約9億円の減額を見込んでいます。このような経済情勢の変化とともに、補助金の一括交付や子ども手当の地方負担分などに代表されるように、地方財政制度上でも不確定な要素が多いことから、現時点で5年間を見通した固定的な目標を設定するのではなく、各年度に適切な目標を設定することとしています。

○吉田副委員長：

全般的にはよくまとまっていると思いますが、何点か修正の検討をお願いします。

まず、全体を通して「持続可能」ということがキーワードになっていますので、全体の趣旨にもその点を盛り込んだ方がよいと思います。

文言としては、6ページの「市の役割の拡大」は「市の役割の高度化」に、また12ペ

ージの「最上位水準」は「優良水準」に、それぞれ修正した方が全体のバランスから適当であると思います。

また、前回は議論がありましたが、「財政規模が縮小」という表現については、実際には規模が大きくなることもありますので、表現を工夫してください。

個別の取組みについては、「施策評価制度の効果的運用」では満足度と重要度を基に評価を行うとありますが、市民としては直面する課題に対しては反応がよいのですが、長期的な課題には反応が薄くなってしまおうという傾向があると思います。これらだけではなく、他の評価基準も合わせて検討する必要があります。

また、「公共施設の適正配置」については、今後基本方針を策定するとありますが、合併してから新規施設も増えており、大胆に見直す必要があるという印象を持っています。場合によっては、市民に対する影響度などいくつかの基準を作って、点数化しながら全体を見直していくということも考えられると思いますので、その辺りも検討していただきたいと思います。

債権回収については、第三者的な立場の方が取組みやすいと思うのですが、都下の市町村で共同実施するような動きはあるのでしょうか。

○横道委員長：

ご指摘の点については、検討をお願いします。

西東京市は人口が20万人くらいですが、同規模の自治体と比べて強制手続きがよく行われているようです。

○事務局：

東京都と連携することはありますが、市町村が連携して実施する動きはありません。

今回位置付けている取組みは、市税だけではなく、その他の債権を含めた回収に関する内部の体制を構築するというもので、4月には係として新たに債権回収対策担当を設置します。

○岡田委員：

前回よりも修正されていますが、まだカタカナの言葉が多く、わかりにくい点が見られます。例えば、資料中にベンチマーキングとベンチマークという言葉はどうのように使い分けているのかなど、わかりません。

用語集も考えているようですが、なるべく日本語の簡単な言葉で置き換えるようにしてください。

○今井委員：

13ページでは、「財政効果目標額」という記述がありますが、数値として目標額は本文中に出てこないのでしょうか。

○事務局：

目標効果額については、毎年度の予算編成に合わせ、財政見通しを踏まえながら策定している総合計画の実施計画・財政計画の策定過程において算出することとしています。

○横道委員長：

他にご意見がないようですので、本日の意見をもとに修正をお願いします。

議題2平成22年度予算案について

○横道委員長：

議題2について、事務局から説明をお願いします。

○事務局：

資料3に基づき、内容説明

○横道委員長：

平成22年度は、新市建設計画の最終年度ということで、これまでで最大の予算規模となっているとのことです。ご意見やご質問がありましたらお願いします。

○今井委員：

平成22年度末の財政調整基金の残高が6億円程度ということで、財政規模の1%程度ということになりますが、これで健全であるといえるのでしょうか。

○事務局：

目標を標準財政規模の10%程度の30億円台としていますので、非常に厳しい状況にあります。特に、今年度は収支減に伴う年度間の調整で財政調整基金を取崩していますので、22年度末残高がかなり低いものとなっています。財政調整基金については、本市よりも財政規模が大きい類似団体においても同様の状況であり、各自治体とも厳しい状況となっています。

○今井委員：

一時的な要因とも言い切れないと思いますので、平成23年度以降はどのようにしていくのか不安に感じます。

多文化共生センターの営業日が週3日から5日になったことで、これまで80万円程度であった予算額が約160万円の増額となっています。これはどのようなことでしょうか。

財政調整基金を取崩している一方で、このような増額項目があるのは理解できません。

○事務局：

増額の要因には、開設日の増加とともに、それに伴う事業内容の拡充という部分も含まれています。

予算査定段階では拡大できないということで進めていましたが、東京都の財源を確保することができることになったことから、今回のレベルアップとなっています。

○浅尾委員：

平成22年度予算の段階で、それぞれの指標はどのくらいなのでしょう。

○事務局：

経常収支比率については、現時点では臨時又は経常などの分類ができていません。

その他の項目についても、これから算定することとなります。

○横道委員長：

平成22年度は新市建設計画の最終年度であり、23年度以降は合併特例債分が減って財政規模が縮小するという事でよいのですか。

○事務局：

財政規模については、単純に合併特例債の分は減りますが、子ども手当が満額支給となると予算規模が50億円程度の増額となりますので、今後の制度改正により先が見通せない部分があります。

○横道委員長：

子ども手当の開始に伴う扶養控除の廃止などによって税収にも影響があると考えられますので、財政規模の見方も少し変わってくると思います。

議題3平成21年度施策評価（試行）の結果について

○横道委員長：

議題3について、事務局から説明をお願いします。

○事務局：

資料4に基づき内容説明

○横道委員長：

今年度の試行結果に基づいて問題点等を改善した上で、来年度に本格実施することです。ご意見やご質問がありましたらお願いします。

○今井委員：

事務事業の貢献度判定のシート中に、「26市のサービス水準との比較」という欄がありますが、例えば予算規模など、何か客観的に比較できる項目があるのでしょうか。

○事務局：

予算規模など統一的に比較対象を設定するものではなく、各事業のサービス内容や対象など、それぞれの事業で設定します。これまでの事務事業評価で使用してきた項目です。その内容をこちらに転記することを考えています。

○岡田委員：

このような取組みは、活用の仕方によってはうまくいくこともありますが、実際にやってみると必ず難しい課題が出てきます。実施しながら改善していくことで、効果的な運用をしていただきたいと思います。

○浅尾委員：

市民の「満足度」と「重要度」とでは、どのような違いがあるのでしょうか。

○事務局：

ある施策に関して、「満足度」は現状についての評価に、「重要度」は今後の方向性についての評価につながります。

○鈴木委員：

今年度の試行の中で、一番大変だったところはどの点で、それをどのように改善していく予定なのか教えてください。

○事務事業：

施策評価の中心的な部分ですが、施策内における事務事業の優先順位付けと、その結果を予算へ反映させる仕組みづくりが難しい点でした。

優先順位付けについては、貢献度評価の考え方を明確にすることで対応します。

予算反映の仕組みについては、評価結果に基づき企画財政部門である程度の幅を持たせる形で行い、最終的な調整を所管部署で行うことで対応したいと考えています。

○横道委員長：

市民意識調査の結果などを利用した、シーリングの変形というようなイメージになるのだろうと思います。

ご意見にもありましたが、実施しながら改善していくことになりますので、本委員会でも注視していきたいと思います。

議題4その他

○横道委員長：

その他として、事務局から何かありますか。

○事務局：

予算上ではあと1回開催することが可能ですが、現時点で今年度中の開催は予定していません。開催が必要となった場合には、改めて日程を調整させていただきます。

閉会